Photographic Society of
Zone System

ゾーン・システム研究会会報
発行日：2005.8
発行者：中島秀雄
事務局：畑文夫
編集部：荒井崇

NO.31

CONTENTS

・ゾーンシステム・テクニカルアドバイス
・暗室ワーク
・春日広隆氏の「デジタル高品位モノクロームプリント説明会」を聴いて
・人物撮影会
・田中英司さんのアトリエ取材
・ゾーンシステム研究会定例会日誌
・インフォメーション

ゾーンシステム・テクニカルアドバイス

（マルチグレード用フィルターの注意点）

中島秀雄

マルチグレードペーパー(以下 MGP) が写真界に登場したのがいつ頃なのか分からないが、私が助手時代、米国デュポン社（米国最大の化学品メーカー）が作ったバリガムという多諧調印画紙を使ったことがある。米国旅行の土産として細江さんが買ってきたもので、すでに米国の写真家が使っているといっていた。当時(1970 年代)は号数ペーパーが当たり前の時代で 1 号紙も手に入ることから、号数ペーパーで不便はなかった。
バリガムが MGP と聞いてテストしてみたものの、当時はまだよく飲み込めず、また調整フィルターが手元にないのでそのまま使ったように記憶している。結果はコントラストが強く、使いやすい印画紙という印象はまったくなかった。

一般に MGP に使われている感光物質は青感乳剤層(硬調)と緑感乳剤層(軟調)からなっていて、フィルターを使用することで硬調乳剤に影響を与えるか軟調乳剤に影響を与えるかでコントラスト調整している。フィルターを使わなければ両方の乳剤に影響を与え、中間調になる。コントラスト調整フィルターはレンズの下に付けるのが一般的になっているが、そもそもレンズの下にフィルターを使うことは画像に影響がないのだろうか。私は少なからず画像を壊しているように感じてならない。

私は二種類のコールドライトをもっていて、フィルターでコントラスト調整するときもある。ピント合わせするときはフィルターをはずし、その後フィルターを装填してプリントするようにしている。**画像粒子がシャープ**に見えるようにノブで調整し、画像粒子が見えなければピント不良ということになる。**ピントルーペで画像調整した後、ルーペをのぞきながらフィルターを装填すると画像粒子はシャープに見えない。**また、**画像粒子がわずかにゆれる。このことは何を意味するのか。**引き伸ばしレンズによるシャープな画像がフィルターによって甘くなってしまうのではないか。また、汚れたフィルターや傷のあるフィルターを使えばシャープな画像は望めないのかもしれない。このことは撮影の場合も同じで、かつて私はヨセミテ撮影のときキズのあるフィルターを使って失敗したことがある。

厚いガラスでサンドイッチされたフィルターは屈折の問題もあり、画像に対する影響は小さくないと思われる。コントラストフィルターはできるだけ**薄いゼラチンフィルター**が良く、また**消耗品**として常に新しいものと交換することを勧める。また、フィルター交換時のブレが問題で、特に 2～3 回フィルター交換しながら望みのコントラストに調整する場合は注意が必要だ。プラスチックのフィルターアダプターをレンズの下に取り付けるタイプは、交換時に角にふれるだけで画像粒子は揺れる。そのゆれが元の画像とぴったり戻れば問題ないがはたしてどうなのか。拡大プリントの場合より大きなずれとなる可能性はある。私は何度も画像のズレを経験している。

かつて研究会員のM氏のプリントはどことなくピントが甘く、最初その原因が分からなかった。よく聞いてみるとM氏は 3～5 回フィルターを交換してプリント制作しているといっていた。最初 2 番のフィルターを使い、次に３番をちょっと、１番を少しと 5 番をほんのわずか。M氏はこういう使い方をしていた。高度のテクニックのように感じるがその根拠を正すと、なんとなくという答えだった。フィルター交換時にレンズに触れたり、

ヘッドがゆれたりすることが画像に影響しているのではないかと指摘したが、そのことが気に入らなかったのかその後M氏は研究会を退会した。画像のシャープネスを壊すだけではなく、全体にカブリの原因にもなる。フィルターがヘッドに内蔵するタイプの引伸機はノブで調整するようになっている。しかし、ヘッドがゆれればシャーププリントは望めないだろう。カメラ撮影で同一フィルムに２回露光する場合、カメラに絶対触れないように細心の注意を払う。プリントも同じである。

大伸ばしをこれから計画している人は、フィルターによるピントのズレやフィルター交換時の画像のゆれを一度確認することを勧める。

暗室ワーク

・日時：２００５年3月２６日（土）９～１８時
・場所：工芸大暗室
・参加者：中島先生、松本、小野、木下、宮岡、荒井、佐野、古谷津、北野、橘田、浜野、越後、畑

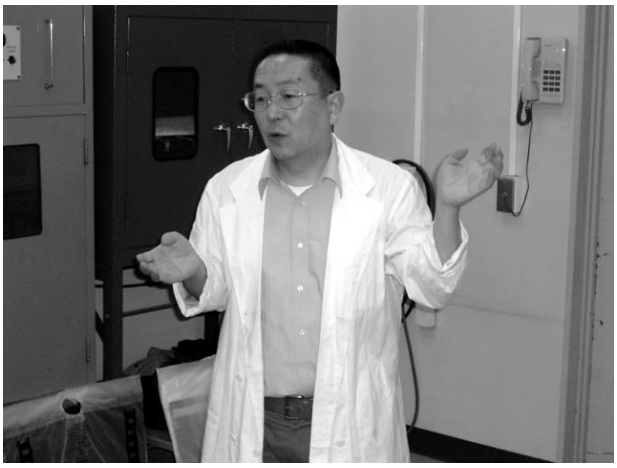
東京工芸大学の暗室を借用し、写真展用に１４×１７の作品創りを目指した。　参加は１２人と盛況。

開始早々、多くの人が印画紙のカブリに悩まされたが、現像液バット上の安全光が原因と判り、急遽部分的に消灯したり、黒のパーマセルを貼って対処した。

また、備え付けのイーゼルが２枚羽根タイプのため、余白の確保に印画紙押さえを外すなど、準備やトラブル対策に手間取った。

それでも昼前には皆が軌道に乗り始め、４時過ぎまで作品創りに集中。　普段は中々体験できない大判のプリントを楽しんだ。

お手伝い頂いた立川氏によると、富士レンブラントやオリエンタルＶＣ－ＦＢⅡなど、殆どの国産ブランド印画紙はイルフォードのＯＥＭだろうという。



銀塩写真を巡る環境の厳しさを再認識させられた。

・現像液：イルフォードマルチグレードペーパーデベロッパー・セレクトールソフト
・定着液：PF2（工芸大オリジナル処方、イルフォードハイパムフィクサーと同じ硬膜剤無し）

春日広隆氏の「デジタル高品位モノクロームプリント　説明会」を聴いて

畑文夫

春日広隆氏は昨年 11 月、銀座ニコンサロンで個展を開かれるなど、日本におけるデジタルモノクロームプリントの分野ではパイオニア的存在である。個展にはゾーンシステム研究会からも多くの会員が見学し、プリントのすばらしさに触れるとともに、そのノウハウに興味を持った方も多いと思う。

去る 1 月 29 日、正式オープン前のギャラリー・ルーニィで「デジタル『高品位』モノクロプリントとはなにか」と題した春日氏のレクチャーを聴く機会があったので、その内容を簡単に紹介したい。

当日の内容は、

・デジタル「高品位」モノクロプリントとはなにか

・何が必要か

・何を学べば高品位なプリントが出来るか

というものであった。私自身よく理解できているわけではないので、概略の紹介にとどめたい。

春日氏はデジタル・プリントについて、オルタナティブ・プロセスの一つと考えている。会場にいた私たちに配慮した発言かもしれないが、銀塩と較べてどちらがすぐれているとか、あるいは銀塩を置き換えるとかではなく、プラチナ・プリントなどのようにいくつもある表現技法の一つであるという。しかしながら銀塩より表現できる範囲が広い（調整の可能性が大きい）ことが魅力ということだ。

デジタル･プリントは欧米では Pigment Print と呼ばれ、多くの写真家が作品を制作しており、ファインプリントの一分野として確立してきている。また専門のプリントサービスなどのビジネスも始まっている。

＊＊＊

デジタルモノクロプリントには二つの方法がある。

１　カラーインクを使う方法

利点はカラープリントとの切り替えが簡単なこと。プリンターメーカが採用する方式。

欠点は色インクを混ぜて無彩色を表現するのでコントロールが難しい。光源によって色が変わってみえる（色転び）が起こることなどである。

２　「高品位」のプリントはモノクロームインクを使う。

黒とグレー４色のインクを使うため、Quad Tone（クオッド・トーン）とも呼ばれる。インクのメーカーはサードパーティで、Lyson, Cone Editions Press　などが有名。インクには顔料、染料、両者の混合などがある。それぞれの特長は、

・顔料インク・・・保存性は良いが、黒の締まりが悪い。　主にカーボンが使われる。

・染料インク・・・顔料と逆で、画像の保存性が悪い。

・顔料／染料混合・・・多くのメーカーが採用している方法。顔料にわずかな染料を加え、セピア調、温黒調などのトーンを出している。

プリント制作の手順

春日氏の制作手順はおおよそ次のようになる。

１　大判カメラ（４×５、８×１０）でカラーリ

バーサル撮影。(モノクロネガを使う場合もあり)
２　フィルムスキャナーで読み取り、デジタル化する。(ハイエンドの CCD スキャナーまたはドラムスキャナを使う)
３　Photoshop で画像調整。　カラーデータを処理して、最終的にモノクロデータに変換する。
４　インクジェットプリンタで出力する。　出力解像度は３６０か７２０dpi が基本となる。

とりあえず始めるには、何を揃えればよいか
　いきなりハイエンドのシステムを導入するのではなく、比較的一般的な機材でも始めることは出来る。インク以外は一般の PC と周辺機器、ソフトウエアである。

１　フィルムスキャナー：　数万円のフラットベッドスキャナーでも使えるものがある。ただし、Ｄmax（読み取れる最大濃度）や解像度のカタログデータは全く当てにならない。実力比較のウェブサイトがあるのでよく調べること。
２　PC：標準型の PC でよいが、早いほど良い（３GHz 以上)。メモリーは最低２ＧＢほしい。画像データはすぐに増えるので、ＵＳＢ外付けＨＤＤ（１００GB 以上）を故障に備えて２台ずつ持つこと。
３　画像処理ソフト：１６ビット処理ができる Photoshop CS が事実上の標準。
４　ディスプレー：手動でカラー調整の可能なディスプレー。１９インチ液晶などがよい。
５　ペンタブレット：画像調整の必需品。これがなければ仕事にならない。安価なＡ６サイズでよいからぜひ揃える。ワコム製など。
６　小型プリンタ：Piezo Tone インクが使えるのはエプソンＰＭ３７００Ｃのみ。（ＰＭ４０００は不可）モノクロ専用機にすること。
７　プリンタプロファイル：まず簡単に始めるには既成のプロファイルを入手する。(下記のインクとセットで購入できる)
　ハードウエアのバラツキまで補正するにはインク会社で提供しているプロファイル作成サービスを利用するか、RIP と呼ばれるプリンターソフトでパッチを印刷して測定し、自分でプロファイルを作成する必要がある。前者は比較的安価に利用できる。
８　インク：Cone Editions Press 社　Piezo Tone プリンタプロファイルとセットで約７万円だが、ランニングコストはＡ４一枚あたり１００円程度になる。(紙代は別）１００％カーボンで、１００年後の濃度変化は５％。(他のメーカーは一般に３０％変化する年数を耐用年数として表示している)
　春日氏は「ポートフォリオ・ブラック」を愛用している。　長期保存には「ミュージアム・ブラックの方が有利だという。現在のところ日本に代理店はなく、ホームページから注文することになる。
９　紙：春日氏の常用は　独 Hahnemuhle 社の Photo Rag 188 又は同 308 である。(数値は平方メートルあたりのグラム数)

何を勉強すればよいか（別途有料コースあり）
・画像処理の知識
・デジタル化の方法（デジタルカメラ、スキャナなどの特性)
・カラー画像からモノクロへの変換方法
　Photoshop のチャネルミックス方法。どのトーンを基本にしてフィルタをかけるか。覆い焼き、レベル微調整のテクニック、など。エネルギーの９割をここに使う。
・プリントの方法

＊＊＊

当日の内容はおよそ以上と作品のデモンストレーションであった。詳しいテクニックの解説などにはとても言及できず、アウトラインの解説にとどまったのは時間の制約もあって仕方がない。（仮に詳しい話になったとしたら、とても私には理解できなかったであろう。）それでも、たとえば「画像処理ではペンタブレットが必需品」など、具体的に参考となるＴｉｐｓもあり、得る所は多かった。

余談だが先日、デジタルモノクロプリントを標榜する写真展を観る機会があったが、入手の容易な機器や消耗品だけで制作したというプリントのクオリティには大差がある。高品位を実現するためには、相当の技術と試行錯誤、それに設備投資が必要で、究極を求めるほど、投資対効果の効率が悪化することともまた事実のようだ。

そして、銀塩かデジタルかに係わらず、作品創りで最も大切なのは、被写体を前にして何をどう表現するかを決断するプレヴィジュアリゼーションであることも再認識させられた。インプットの段階をおろそかにして、後のプロセスでカバーすることは、やはり無理なのだ。

人物撮影会

日時：２００５年５月５日（木）9:00～15:30
場所：横浜　山手２３４番館にて

モデルはベネズエラ出身の Andreina Lairet さん

午前中は屋外、午後は室内での撮影を行いました。１０名以上が参加し、モデル一人では不足だった。

撮影にあたり先生より以下のアドバイスがあった。

・自分のカメラ操作に慣れること
・撮影前に周囲を歩き、背景を選ぶこと。
・まず作品のイメージを作る。
・レフ板は使いすぎると不自然な描写になるので注意。

田中英司さんのアトリエ取材

荒井崇

今回、研究会会員である田中英司さんのアトリエを取材したので報告する。

御存知の方も多いと思うが、昨年の写真展作品の額装は、田中英司さんのアトリエをお借りして行った。昨年秋、これまで額装用に借りていた新宿のIDEXが昨年から閉鎖となり、私たち研究会会員は途方に暮れていた。このときアトリエを快く提供してくれたのが田中英司さん。当時、言わば救世主のような存在であった。

田中英司さんのアトリエは、東横線反町駅近くの倉庫（仕事用）を改装したもので、ギャラリー兼作業場、及び暗室の２室で構成されている。

１．ギャラリー兼作業場

入り口を入るとかなり広いギャラリーがある。ここは、作品を展示するスペースであり、乾燥や額装を行うスペースでもある。

壁３面には、写真フレームを吊り下げるルーフレールと、天井からのスポッライト（ハロゲン６０W）が多数装備されており、壁にはドイツのアルコア社製ファブリック素材が貼られている。壁の色はグリーン、落ち着いた雰囲気が作品を盛り立てている。今回、田中英司さんの作品が１５点前後展示されていたが、いずれもすばらしい作品だ。ぜひとも早く個展を開催していただきたい。

このスペースには、アナログ真空管ステレオもあり、じっくり音楽を聴きながら作品を楽しむことができる。また、ドライマウントプレス機やカッター等道具も揃っており作業スペースも十分とれるのが非常にうらやましい限りである。

２．暗室

暗室の広さは４畳前後の個室であり、奥にコンパクトな流しが設置されている。流しの大きさは１１ｘ１４バット３枚が入る広さ。半切は流しに入らないため机の上に置くとのこと。

引き伸ばし機は、ゾーンVI社のマルチグレードヘッドコールドライトタイプ。このヘッドは、通常蛍光管とイエロー蛍光管の２本が入っており、その比率でVCペーパーのコントラストを調整するすぐれものでフィルターが不必要。無段階のコ

ントラスト調整が可能である。

台座、引き伸ばしレンズ、ネガキャリアの平行出しは専用のレーザー光線調整機を使用するそうである。まずレンズ部にミラーを当て、置き台座に置いたレーザー光源の入射ポイントと反射ポイントが一致すれば平行が出たことになる。同様にレンズをはずしてネガキャリア部にミラーを置いて同じ作業をする。ただしネガキャリアがガラスであればガラスがミラーの役目をするのでミラーは不要である。

薬品類は棚に整然と整理されており、どの薬品在庫があるかが一目でわかる。また、印画紙現像液は自家調合もトライしているそうで、見慣れない薬品と天秤が目を引いた。

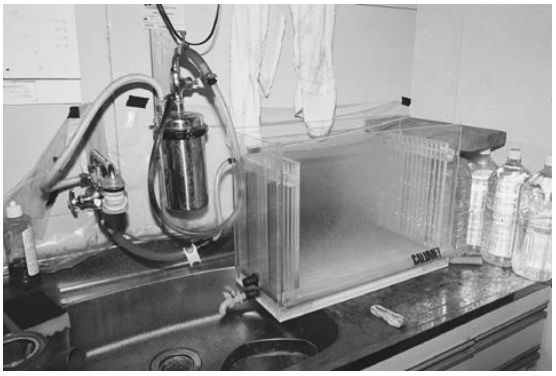
水洗機は上から水が落ちて来るタイプで大きさは１１ｘ１４まで。水が下から上がるタイプと比べると、水供給部に薬品粉が溜まり難いという。

田中さんの暗室を見ての感想は、とにかく棚が整然と配置されていて、必要な物がすぐに取り出しやすくなっていること。使い勝手がとても良さそうに感じられた。

３．<u>BS 朝日 TV 番組[THE MEN’S TV]での放映</u>

田中英司さんのアトリエは、BS 朝日の TV 番組（2005 年 7 月 2 日）で放映された。ふとしたことから TV 局の取材に応じたそうである。

男のこだわりをテーマにした[THE MEN’S



TV]という１時間番組で、その日のテーマは白黒写真を特集していた。番組の中で取り上げられた作家は、森山大道氏、内藤忠行氏、小出誠氏、田中英司さんの４人。アマチュアカメラマンとしては田中英司さんただ一人である。

イメージを優先させる少し変わった構成の番組であるが、オープニングの作品は田中さんのイメージが採用された。番組の中では、田中英司さんの暗室、ギャラリーそれから撮影風景まで採用されている。

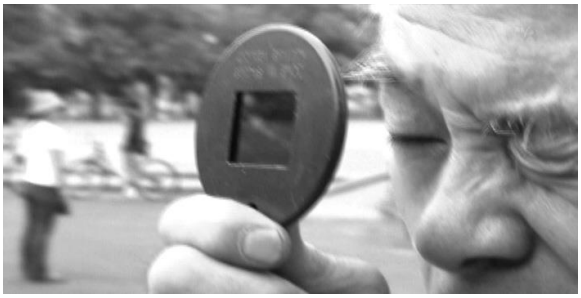
田中英司さんのインタビューと、ゾーンシステムを紹介されなかったのが少し残念ではあるが、田中英司さんが白黒写真にこだわるニュアンスは十分伝わったのではないかと思う。

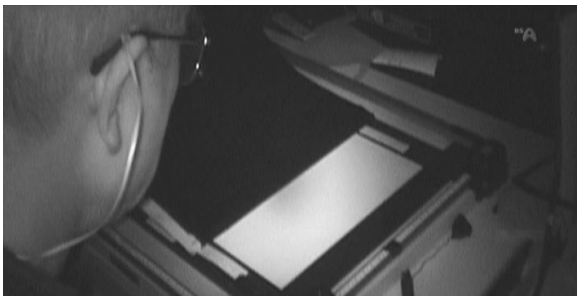
（出演番組のスチルは次ページに掲載）

以上、田中英司さんのアトリエを取材して感じたこと。それは「やはり自分のこだわりたいことを徹底してやる。例え人に何と言われようとも。」

ある意味、これが充実した人生を送るコツではないだろうか。

BS 朝日 TV 番組［THE MEN'S TV］より
（田中英司さん出演番組）





ゾーンシステム研究会定例会日誌

2005年2月20日（日）

ゾーンシステム研究会総会　13:00-15:00

ランドマーク１３Ｆフォーラムよこはまセミナールーム１

・出席者：中島先生、小野、古川、田中（英）、田中（肇）、松本、山本、北野、石井、圓子、長谷川、畑、菅野、宇野、木下、荒井、宮岡、佐野、岡崎、浜野

議事

１　開会挨拶　（中島代表）

２　総会の成立　（事務局　畑）

会員数・・・４２名

出席者・・・１４名

白紙委任または他人を代理指名・・・１２名

計２６名

出席者と白紙委任・代理指名が過半数を超えたので総会は成立しました。

３　議長選出　北野氏を賛成多数で選出

４　昨年度の活動報告　（事務局）

５　昨年度の会計報告　（会計　松本）

６　会計監査報告　（幹事　古川）

７　今年度の活動計画　（代表）

・今年はプリントサイズを１４×１７にスケールアップしたい。

・第１０回写真展は東京と京都で行いたい。
京都展はギャラリーイシスと交渉中、東京展はシリウスを希望している。

・会場確保のため、プレゼンテーション用プリントの提出を会員にお願いする。

・６月にはカリフォルニアのアンセル・アダムス暗室見学ツアーを企画している。　多くの参加を願いたい。

・研究会主催のワークショップを立ち上げたい。ホームページを利用した通信講座で地方在住の会員も増やしたい。

・意見：１０周年記念のポートフォリオを制作してはどうか・・・検討する

８　今年度の予算案　（会計）

・意見：京都展開催には交通費・運送費用などが昨年以上に必要となる。　経費として計上すべきでは。

９　その他議題

古谷津氏の幹事選任（事務局提案）　・・・　賛成多数で可決

１０　セミナー「フランスを中心としたヨーロッパ写真界とオリジナルプリント」

倉持悟郎氏

（１５：００－１７：００）

2005年３月12日（土）

ランドマーク１３階、フォーラムよこはま

・出席者：中島先生、古谷津、松本、古川、田中英、岡崎、佐野、石井、田中肇、北野、越後、橘田、鈴木、石川、畑

・作品持参者：古谷津、松本、岡崎、北野、橘田、石川、畑

・冬の撮影会

３月５，６日　丸沼高原付近。　参加５名（中島先生含む）

天候に恵まれて収穫が多かった。　（北野、橘田氏が作品持参）

・暗室ワークの詳細について

・写真展プレゼンテーション用プリント

シリウス（新宿）での写真展開催を目指し、プレゼンテーションを３月下旬に予定している。最低４０点必要だが、まだ数点不足。未提出の方は３月２０日必着で送付願う。

2005年4月9日（土）

ランドマーク１３階、フォーラムよこはま

・**出席者**：中島先生、古谷津、古川、松本、田中英、岡崎、越後、石井、北野、橘田、鷲尾、木下、鈴木、石川、畑

・**作品持参者**：古谷津、松本、石井、北野、橘田、石川、畑、木下

・写真展について

「シリウス」にプレゼン作品を提出した。（４０点）審査の結果は４月２０日ごろ判明の見込み。そのあとで京都展（ギャラリー　イシス）の詳細を詰める。

プレゼン用に提出した作品には、展示困難なレベルのものもあり。新作も用意する必要がある。今後の例会にワークプリント（８×１０）を持参してほしい。

各自で１４×１７プリントを仕上げること。（夏場になると液温調節など難しくなるので、なるべく今のうちに！）

・人物撮影会

モデルのめどが立ち、日程と場所を調整する。４月２４日以降の土日を予定。

・アンセル・アダムス暗室見学ツアー

詳細決定。　会員以外でも希望者あれば参加可。

・　その他

中島先生と有志で全日空整備工場の見学ツアー参加。

・大判カメラ撮影デモ

初めての試みとして、例会を早めに切り上げ、屋外で大判カメラの撮影デモを行った。　アオリの基本的な操作、過焦点の見つけ方、ポラロイドの感度設定方法など、改めて中島先生から指導をうけた。

2005年５月14日（土）

ランドマーク１３階、フォーラムよこはま

・**出席者**：中島先生、畑、古川、石井、古谷津、田中（肇）、岡崎、山本、木下、北野、鈴木、松本、小野、荒井

・**作品持参者**：古谷津、山本、岡崎、木下

・写真展について

＃シリウス（新宿御苑）

＊展示　１２月８日（木）～１４日（水）

＊搬入　１２月７日（水）３時　（展示作業はギャラリーが行う）

＊ニュースリリース原稿　（中島先生）・・・９月２５日〆切

＊代表作６０枚プリント　（別途選定）・・・９月２５日〆切(Ｌサイズ又はサービスサイズ)

＊看板用プリント　四つ切サイズ（同上）・・１２月７日（搬入日）

＊ＤＭハガキ作成（中島先生）

＊パーティ担当（松本）

＊会場内挨拶パネル、キャプション準備（畑）

＊会期中にギャラリートークを行う？（ギャラリーに打診）

＃イシス（京都）

＊展示　１１月１日（火）～１０日（木）・・・希望

＊搬入１０月３０日（日）・・・展示作業が

必要（梱包方法など調査・・・荒井）
＊ＤＭ　・・・　１０月中旬発送予定　（東京　展との併記は不可？）
＊概略日程
＊本番プリント（１４×１７）完・・９月末
＊額装　　～１０月下旬

・中島先生写真展予定有り（12 月 1 日~12 月 14 日）
・人物撮影会報告
＊人数がやや多かった。（13 人）時間が無かった。
＊良い写真を本人にプレゼントするので持参して欲しい。
＊もっと自分のカメラに慣れる事。（モデルに、カメラ操作が駄目な事を悟られてはいけない）
＊背景をまず考える。
＊レフ版を使いすぎると自然に撮れない。
＊撮影しているのを回りで後ろから撮ってはいけない。
・工芸大でポートレート展を開催中。とても良いので見に行くと良い。(中島先生)
・冷黒調にするための処方紹介（古谷津氏）
＊印画紙現像液にカブリ防止剤として含まれる臭化カリをベンゾトリアゾールで置き換えると冷黒調となることが知られている。
＊ベンゾトリアゾールを D72（デクトールでもよい）（１リットル）に対して 1%の溶液 6cc~15cc 混ぜた。（このときベンゾトリアゾールは、1g を 100cc の水で溶く（52℃以上で）と 1%の溶液となるのでこれを使う。）
＊レンブラントでやってみたが NG だった。今後ペーパーによってどうか？オリトーン冷黒に交ぜたら？をトライする。
＊ベンゾトリアゾールは２５グラムで 1050 円くらい。
・ 攪拌方法紹介（古谷津氏）
薬品はしゃもじで前後に動かすと良く溶けるとのこと。

2005年 6 月 11 日(土)
ランドマーク１３階、フォーラムよこはま
・**出席者**：中島先生、畑、古谷津、田中（肇）、松本、小野、菅野、荒井、佐久間、圓子、木下、岡崎、北野、越後、鷲尾、鈴木
・**作品持参者**：木下、古谷津、岡崎、畑

・ アンセル・アダムス暗室見学ツアー
（６月１５日（水）～２１日（火））
＊マイケルアダムスが友人とパーティ参加予定。
＊できれば日本でのアダムス写真展（研究会もいっしょに）を提案してみたい。
・新人紹介：佐久間氏　鷲尾氏
・田淵行男写真展（写真美術館で明日まで）：イメージがアダムスに似ている。アングルや光の使い方は抜群。ただプリントが良くない
・ギャラリー f (現代アートギャラリー)で白岡順氏、山崎博氏の２人展があった。とても良い写真展であった。
・HP 更新：役割分担して記事を書く。
・アンスコ軟調現像液：HP に詳細有り。サンプルプリントを先生が見せてくれた。
（セレクトールソフトではシャドーが締まらないが、これなら問題なし。）

2005年７月９日(土)

ランドマーク１３階、フォーラムよこはま

・**出席者**：中島先生、畑、田中（肇)、田中（英)、松本、古川、石井、荒井、佐久間、木下、岡崎、北野、越後、浜野、鈴木、橘田、宮岡、宮内

・**作品持参者**：木下、北野、松本、橘田、宮岡、石井

・アンセル・アダムス暗室見学ツアー報告会を今後計画する。

・静物撮影会：７月１７日（日）行う。紙、鉄、野菜（アンティチョーク）等

・HP の更新：掲載写真／作品を入れ替える。（表紙作品は、例会写真からみんなで選んではどうか。）

・大阪写真映像専門学校にて中島先生講演決定。（11/14）（倉持さんのコーディネート）

・　９月から現在の例会場所が使えなくなる。
以下場所に変更決定。
横浜市民活動支援センター４F 会議室
（受付は５F）（JR 桜木町駅下車すぐ）

・　暗室ワークショップを８月に計画する。
（工芸大へ問い合わせ）

Information

【売ります】

石井政吉

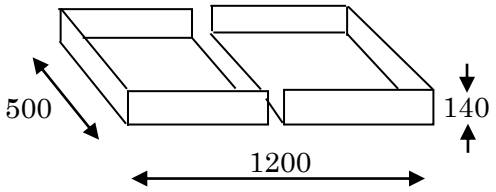
・JOBO LT2523 マルチタンク２（コグ付き）１ヶ
7000 円
・JOBO LT2523 マルチタンク５（コグ無し）２ヶ
１ヶにつき 10000 円
・JOBO LT2523 マルチタンク５（コグ無し）のキャップ１ヶ　100 円
・ JOBO LT2513 シートフィルムリール 2500（4x5 用）５ヶ
１ヶにつき 2500 円(5 ヶセット 12000 円)
・JOBO LT3350 カスタードフィルムウォッシャー
１ヶ　1000 円
・LPL コンビプラン現像タンク 45T
１ヶ　12000 円
＊値段はあくまで目安で、相談に応じます。

菊池淑郎

・引き延ばし引伸機オメガ D5V（ﾚﾝｽﾞ別）
・・・150000 円×２台
・プリントウォッシャー　カルメット
幅 570×奥 250×高 500　・・・40000 円
・ドライマウントプレス 210M　・・・100000 円
・塩ビ槽（幅 1680x 奥 680x 深 140）
・・・40000 円
・スノコ　２枚　・・・30000 円
・チラー（冷水機）100V　0.4／0.48ｋW
・・・50000 円
・流し　幅 1500x 奥 750 薬品収納可
・・・35000 円
・ 作業台
幅 1940×奥 770×高 800
印画紙収納可　・・・38000 円
・作業台
幅 1200×奥 550×高 800
テーブル石厚 50 薬品収納可　・・・25000 円
・作業台
幅 1800×奥 600×高 800
テーブル石厚 50 薬品収納可　・・・30000 円

中島秀雄

・塩ビ製組み立て流し　・・・15000 円



Information

【原稿募集】

会員の皆様からの原稿をお待ちしています。

［以下原稿投稿に関するお願い項目です。すみませんがよろしくお願いします。］

１．写真原稿は、紛失事故防止のためできるだけネガやポジは避け、プリントでお願いします。

２．手書き文章はスキャナーでパソコンへ入力できないので、原則として受け付けません。以下いずれかの方法にて投稿願います。

・ワープロやパソコンでプリントアウトしたもの、（スキャナーでパソコンへ入力します。）

・パソコンの電子メール

・ウィンドウズの Word2000

・text ファイル

（ちなみにこの会報は、ウィンドウズの Word2000 で作成しています。）

ただし、どうしても手書き文章しか投稿できない事情がある場合は、事前に連絡をいただくようお願いします。

３．イラストは手書きでも結構です。スキャナーで取り込みます。

パソコンの扱いが不慣れのため、時々ご迷惑をおかけするときがあるかと思いますので、その際はよろしく御指導ください。

［編集部］　荒井　崇